

♪ 2017年度

poco a poco

♪

Nr. 12

2017年9月27日(水) 文責: プファイル・辰巳

勉強になった... 調律のお話

9月22日、調律師の矢作さんをお迎えしての「音楽のタベ～調律のお話」を開催しました。とても身近な楽器ピアノではありますが、中に隠れている部品を見せていただいたり、鍵盤をごっそり引き出して見せていただいたりしながら、興味深い話をたくさん聞かせていただきました。普段はあまり意識しないで聞いているピアノの音が、きっと少し違って聞こえてきたのではないのでしょうか？

辰巳先生も、普段できない経験をさせていただきました。手前の黒い板がない、むき出しの状態です。1曲弾きました。「慣れ」というのは恐ろしいものですね。黒い板がないだけで、鍵盤の位置が何だか違って見えてしまい、演奏がガタガタになってしまいました。「ごめんなさい。失礼しました。」出てくる音も普段の音とはずいぶん違って、2重の驚きでした。

通常の演奏会形式とは一味も二味も違う「音楽のタベ～特別企画」いかがでしたでしょうか。

11月には、全校児童生徒で聴く「音楽鑑賞会」も予定しています。

「芸術の秋」・・・演奏会シーズンも始まりました。是非、コンサート会場やオペラ劇場、お近くの教会などでも、ドイツの演奏会を楽しんでいただきたいと思います。

音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑥ 歌曲の王 シューベルト

„Du bist die Ruh“ (君はわが憩い) >

今回紹介する作曲家はオーストリアを代表する作曲家、フランツ・シューベルトです。音楽の都ウィーンに移住し、そこで生涯を終えた音楽家は多いですが、ウィーン生まれのウィーン育ち・・・という作曲家は意外に少なく、その少ない中の一人がシューベルトです。ウィーンの町はずれ、ベートーヴェンの



家が残るハイリゲンシュタットに向かうトラムに乗っていると、途中でこのシューベルトの生家が残っており、見学も可能です。

モーツァルトも短命で35年の生涯でしたが、シューベルトはさらに短い一生で、31歳の若さで世を去りました。その短い生涯の中で600曲以上の歌曲を作曲したため、「歌曲の王」と呼ばれています。「魔王」「野ばら」「アヴェマリア」など、有名な歌曲はたくさんあります。そんな中から、今回選び出した曲は、「君はわが憩い」という歌曲です。

シューベルトの生きた時代は19世紀初頭(1787-1828年)。音楽の歴史区分でいうとちょうど古典派からロマン派への移行期に当たります。ちょうどベートーヴェンの時代と重なっています。シューベルトは同時代の大作曲家ベートーヴェンを大変尊敬していたそうで、ベートーヴェンが56歳で1827年に亡くなった翌年、まるで後を追うかのように31歳の若さでこの世を去りました。

シューベルトの歌曲は、まさにこの時代の音楽の特徴をよく表していると思います。古典的な作曲の手法を基調としながらも、ロマン派に通じる美しい旋律やハーモニーが、そこにちりばめられています。

「君はわが憩い (Du bist die Ruh)」という曲は、静かにピアノ前奏が始まります。ごくごく少ない音で、一聞、単純にすら思える音型で始まるこの前奏が、実に美しく、ここでまずぐっと曲の中に引き込まれます。まさに

「憩い、安らぎ」を感じさせる前奏です。そしてそれに続く歌の旋律、これも平坦な感じで始まるのですが、これまた実に美しいメロディです。

Youtubeでいろいろな歌手の録音を聴いてみました。男声なら往年の名バリトン、フィッシャー・ディスカウ、女声ならソプラノのバーバラ・ボニーの演奏がすてきでした。



ほんのちょっとだけ 演奏会情報

10月21日(土) アルテオーパー 大ホールにて

20時から

ミュンヘン フィルハーモニーの演奏

ピアノ: ヴァレリー・ゲルギエフ

ラフマニノフのピアノ協奏曲 第4番

ベートーヴェンの交響曲 第5番 ほか